

物流 WEEKLY

平成29年11月27日

返却コンテナ問題 時間ロスの解決を

大ト協海コン部会役員会

【大阪】大ト協海コン部会（山口与嗣雄部会長）は15日、役員会を開催。

わざに、阪神灘海上コンテナ協会(同会長

部会食も一労永の協力を得て初期段階は進め
ていった」とし、最終的に
には部会・阪神海コン

機では違反確認された
3か月後に指導報告書
が届く。詳しい資料を
同高速会社に持参して

問題になつてゐる。山口部会長らは港湾労働者が加入する労働組合の協力を得て、問題解決に努める」と報告。同労組からは「日時・コンテナ番号・ヤード名・乙仲名・船社名など詳しいデータ収集に努めてほしい」との要請があり、同部会でもアンケートを実施した。



会議の冒頭では、デバンコンテナの洗浄などの返バン問題について話し合われた。現在、空コンテナを返却する際に汚れやダメージがある場合、ヤードの判断でコンテナの洗浄を要請されることから、時間ロスが発生するとして、業界内では

ついて実態調査を行なうとした。一度返却のためにトレーラでコンテナをヤードに持ち込み、でも、洗浄で戻されれば、車庫や会社にコンテナをシャシーに積載したまま、差し替えたども必要となり、ドライバーの労働時間にも大きく影響する。山口

協会を通じて、ヤードなどの事業者で構成する団体などにも返却コントローラーの時間ロスについて問題解決に努めたい」とした。

過積載でないことを証明し、その後、2か月後に判断が正式に行われる。大量の台数が阪神高速などを通行している中で、取り締まりをされる度に違反でならないことを証明するのには非常に時間が要することから、阪神高速道路に対しても何度も

の指導報告に関するところを証明するのに非常に時間が要する」とから、阪神高速道路に対しても何度も申入れを行つて、状況は一向に変わらないと説明。回答数56社。

起じて、ヤード事業者が構成す
どにも返却コ
の時間ロスにつ
題解決に努めて
いた。
、各種報告事
いふ中で、取り締まり
をされる度に違反でな
過積載でないかと証
明し、その後、2か月
後に判断が正式に行わ
れる。大量の台数が阪
神高速などを通行して

通行時に自動取り締まり機（カメラ）で認識され、ナンバープレートなどから会社に指導報告書が届く（詳説）